

## 研究授業「保育原理ⅠA」の実施

松 原 勝 敏\*

### The reflection of an open class of “Childcare Principle I A”

Katsutoshi Matsubara

#### (Abstract)

This paper is the record of an open class performed in the Takamatsu Junior College. About the open class performed by Matsubara, this paper records the outline and aims at considering as future study materials.

The main contents of this paper are the aim of a lesson, the method of guidance, a teaching plan, and the points of a lesson on the day.

key word: an open class, lesson research, childcare principle

#### はじめに

本稿は、高松短期大学保育学科で行われた「保育原理ⅠA」の研究授業の記録である。本稿は、本稿を執筆する松原が担当して行った研究授業について、その概要を記録し、今後の研究資料とすることを目的とするものである。

キーワード：授業公開，研究授業，保育原理

---

\* 2008年12月17日 所属：高松大学発達科学部

## 1. 実施の概要

### (1) 研究授業

日時：2008年6月26日（木） 1校時

場所：2101号教室

科目：保育原理ⅠA（保育学科1年生対象）

担当：松原勝敏

### (2) 検討会

日時：2008年6月26日（木） 2校時

場所：2104図工室

## 2. 保育原理ⅠAの講義概要（本学シラバスより）

### (1) 【授業の紹介】

保育者をめざして、まず1年生の最初の段階で、子どもと保育に対する基本的な考え方を身につけてもらいたい。具体的には、保育の専門性、保育観・子ども観、子ども理解、保育における環境の意味、少子化の背景や少子化対策の動向について解説する。

### (2) 【教育目標】

「保育とは何か」という基本概念を身につけてもらいたい。また、保育を社会的、文化的視点から捉えた上で、具体的な事例を複眼的に分析することを通して、今、保育がどうあるべきかを考える基本的な考え方を身につけてもらいたい。

### (3) 【成績の評価】

論述形式の最終試験を期末に課し、これにより評価する。

### (4) 【授業計画】

第1回 オリエンテーション

第2回 保育の目的と目標

第3回 保育の目的と目標

第4回 子ども観について考える (1)

第5回 子ども観について考える (2)

第6回 子ども観について考える (3)

第7回 子ども観について考える (4)

第8回 保育・子ども理解からの出発 (1)

第9回 保育・子ども理解からの出発 (2)

第10回 保育・子ども理解からの出発 (3)

第11回 子どもが育つ環境の理解 (1)

第12回 子どもが育つ環境の理解 (2)

第13回 子育て支援の必要性

第14回 子育て支援の方向性

第15回 まとめ

#### (5) 【使用テキスト】

森上史朗編『保育原理』（ミネルヴァ書房）

### 3. 本時にいたるまでの学習活動

#### 第1講 「オリエンテーション 『保育』とは・・・」（4月10日）

「講義に対する意欲を涵養する」「『保育』の基礎的な概念を獲得する」ことを目標に授業を行った。まずは、個々の学生に「保育」の言葉からイメージすることをカードに書かせた。一通り書いた後で、研究室単位に話し合いをさせることを通して、保育に関して多様なイメージを自らが抱いていること、及び、学生は保育者になることを志していても、実は「保育」に関して明確な概念を有していないことの自覚を図った。

この活動を通して、保育士養成課程における保育原理の位置づけを解説し、理論を学ぶことの意義について説明した。

なお、学科長としての立場から、訓育的な内容の講話を加えた。

## 第2講 「保育の目的と目標 (1)」(4月17日)

「『保育』に関する概念の形成を図る」ことと「『幼稚園教育要領』と『保育所保育指針』から、『保育』の目的と目標を整理する」ことを目標に授業を行った。

授業の過程では、「保育所」と「幼稚園」の違い、「保育」と「幼児教育」の違いを考えさせることを通して、先週に引き続き、保育に関する概念が乏しいことを確認させた後に、保育所保育指針と幼稚園教育要領を資料にして、保育所保育の目的と幼稚園教育の目的を解説した。

## 第3講 「保育の目的と目標 (2)」(4月23日)

「『保育』に関する概念の形成をはかる」ことと「『幼稚園教育要領』と『保育所保育指針』から、『保育』の目的と目標を整理する」ことを目標に授業を行う予定であった。しかしながら、教室に入ったときに、学生は教室の後ろの方から着席し、前の4列が空いている状態であった。そこで、学科のオリエンテーションや本授業の第1回目に話した訓育的な内容を繰り返してしまい、授業内容を進めることができなかった。

## 第4講 「子ども観について考える (1)」(5月1日)

「自らの子ども観をまとめる作業を通して、自らの子ども観を深める」ことと「子ども観をもつことの大切さを理解し、子ども観を大切にする姿勢をもつ」ことを目標に授業を行った。

授業の過程では、まず、学生個々に子ども観を自分なりにまとめ、それを保育学研究法の研究グループごとに討論をさせることを通して、子ども観についての考察を深めた。また、18世紀の子どもの絵を見せることを通して、「子どもをどう見るか」ということについて教室全体で検討し、子どもは子どもという存在を認める社会でなければ存在しないことを伝えた。

## 第5講 「子ども観について考える (2)」(5月15日)

「先週出た多様な子ども観について考え、自らの子ども観を深める」ことと「子ども観をもつことの大切さを理解し、子ども観を大切にする姿勢をもつ」ことを目標に授業を

行った。

授業の過程では、前回の授業で研究グループごとにまとめた子ども観をプリントにして配布して、子どもに対するいろいろな見方があることを確認させた。また、テキストの図を使って、子ども観が成立する背景を検討した。

#### 第6講 「子ども観について考える (3)」(5月22日)

「子ども観の成り立ちを考え、自分の保育観を顧みる」ことと「子ども観をもつことの大切さを理解し、子ども観を大切にする姿勢をもつ」ことを目標に授業を行った。

授業の過程では、学生個々に、自らの子ども観を振り返り、どうして自分が今現在抱いている子ども観を有するに至ったかを考えさせた。そして、テキストの図を使って、再び子ども観が成立する背景を検討した。

なお、第4講から第6講にかけては、内容を整理して2回の授業でまとめた方がいいと昨年感じていたにもかかわらず、授業者の怠慢によって、同じ形式で授業を行ってしまった。

#### 第7講 「子ども観について考える (4)」(5月29日)

「子ども観の成り立ちを考え、自分の保育観を顧みる」ことと「子ども観をもつことの大切さを理解し、子ども観を大切にする姿勢をもつ」ことを目標に授業を行った。

授業の過程では、保育者の子ども観や園がもつ子ども観が保育に現れることを理解させるために、高松幼稚園と高松東幼稚園それぞれがホームページに掲げてある保育目標を紹介すると共に、保育目標に従って取り組まれている保育内容を紹介した。

#### 第8講 「保育・子ども理解からの出発 (1)」(6月5日)

「子どもを理解する際の基本的な姿勢を理解する」「子ども理解を深めるために必要な日々の姿勢に気をつける意志を高める」ことを目標に授業を行った。

授業の過程では、テキストで紹介されている絵本『トーマスのもくば』をスキャンした画像を教室のディスプレイに映して、授業者が学生に対して読み聞かせを行った。ほとんどの学生は、この絵本が「友だちを大切にしよう」「譲り合おう」などといった訓育的な教育絵本であると感じていたが、主人公のトーマスの立場に立って考えてみると子どもの持つすばらしさを表している絵本であると読むことができることを説明した。

そして、子どもをどう見るかによって子どもの見方が変わってくると言うことを説明した。

#### 第9講 「保育・子ども理解からの出発 (2)」(6月12日)

「子どもを理解する際の基本的な姿勢を理解する」ことと「子どもの発達を観る基本的な姿勢を理解する」ことを目標に授業を行う予定であったが、学生の反応等により時間配分を誤り、2つめの目標を達成することはできなかった。

授業の過程では、先週に引き続いて、子どもをどう見るかによって子どもの見方が変わってくると言うことを説明した。

#### 第10講 「保育・子ども理解からの出発 (3)」(6月19日)

「子どもを理解する際の基本的な姿勢を理解する」ことと「子どもの発達を観る基本的な姿勢を理解する」ことを目標に授業を行った。

授業の過程では、「発達」の概念の正確な理解を図ると共に、保育の中で「発達」をどのように理解するのかを検討し、最後に、子ども理解を深めるための保育者の姿勢を説明した。

#### 第11講 「子どもが育つ環境の理解 (1)」(6月26日：本時)

「環境」の概念を理解する」ことと「子どもを取り巻く社会的な環境の変化とその影響を理解する」ことを目標に授業を行う予定である。

授業の過程では、テキストの内容を大きく超えない範囲で、環境の概念を説明し、子どもを取り巻く環境がいかにかつての時代と変わったかと言うことを簡単に説明したい。

#### 第12講 「子どもが育つ環境の理解 (2)」(7月3日)

「子どもを取り巻く社会的な環境の変化とその影響を理解する」こと、「『環境による保育』の意味を理解する」こと、そして、「子どもの遊びをはぐくむ環境のあり方を理解する」ことを目標に授業を行う予定である。

特に、遊びをはぐくむ環境の在り方と環境構成のポイントについて概説したい。

#### 第13講 「子育て支援の必要性」(7月17日)

「今日の少子化問題について、関心と理解を深める」こと、「少子化の現状と背景を理解する」こと、そして、「子育て支援の基本的な考え方を理解する」ことを目標に授業を行う予定である。

授業の過程では、少子化に伴う様々な社会現象をビデオやパワーポイントを使って学生に印象づけたい。

#### 第14講 「子育て支援の必要性と基本的方向性」(7月24日)

「今日の少子化問題の背景と影響について、関心と理解を深める」「保育の仕事の社会的な重要性を認識し、保育学生としての自覚を高める」ことを目標に授業を行う予定である。

授業の過程では、まだ1年生であるので、最近の子育て支援の政策について詳述することは避け、子育て支援に係る根本的な姿勢をきちんと理解させることを目指したい。支援策の詳細は、授業者が担当する2年次後期の「教師論」で説明する予定である。

### 4. 学生の状況

学生は、とても明るく素直な性格を有する者がたくさんいる。また、やや幼い感じを残しており、とても人なつこいところもある。ちなみに、授業者のことを普段は「先生」ではなく「かっちゃん」と呼んでいる学生も多いらしいが、授業者に面と向かって「かっちゃん」と発する学生は多くない。

学生とは、保育原理ⅠAの授業だけでなく、保育学研究法の授業でも顔を合わせ、また、2号館が完成したことによって、日常的に顔を合わせる機会も増えた。その分、学生と授業者の関係は比較的良好であると、授業者は考えている。

ただ、学科長としての地位や授業中に厳しい言葉を発することもあり、授業者を「怖い」あるいは「とっつきにくい」と思っている学生も散見されるようである。このような状況から、授業時には好きな場所に着席をさせているが、私語が目立つことはなく、まじめに受講している学生の姿が目立つ。しかしながら、授業内容をきちんと理解できているかという疑問を禁じ得ないところもある。

## 5. 授業に対する参観者の評価

本学における研究授業で使用している授業参観記録用紙を通じて、参観者が多くの意見をくださった。ここでは、これらの意見を簡単に整理しておきたい。

まず、授業に対する肯定的な意見として、綿密な授業計画と板書計画が用意されて丁寧に授業実践が行われているという意見、授業内容が厳選されていて教材提示も具体的であるという意見、学生の実態を把握して授業中における学生とのコミュニケーションが成立しているという意見、授業における規律が保たれているという意見に、大きく分類することができると思う。

授業者は、本稿末に示しているとおり、毎回の授業に指導案を作成し、板書計画を用意している。指導案といっても大まかなものでしかないが、指導案の作成に当たっては、1回の授業毎に講義する内容が完結するように授業内容を検討すると共に、授業の過程でメリハリをつけたり学生の学習活動に変化がもたらされるように気をつけている。また、板書計画においては、最低限の板書内容を厳選し、授業中は一切消すことなく、授業が終了した時点で板書を見直せば、その時間の講義内容の全体像が把握できるように意識している。このことが、上に記した評価につながったと認識している。

また、上の評価の中でも、学生の把握や学生とのコミュニケーションの成立及び授業中の規律の維持については、教室を離れたところで、例えば、廊下ですれ違う時にも笑顔で挨拶をしたり、授業中とは異なる態度で冗談を言ったりするなどのふれあいを大切にしていることが、授業中における学生の態度によい影響を与えているのではないかと考えている。また、学生の名前と顔を一致させ、普段から学生に「〇〇さん」と声をかけたり、授業中に集中できていない学生に対して、「その学生さん」ではなく、「〇〇さん」と名指しで注意したりすることが、「先生に覚えられている」という緊張感を生んでいるのかもしれない。

次に、授業の改善につながる意見として、授業内容を学生がどの程度理解できているのかという疑問、授業者から学生に発せられるメッセージが伝わっていないのではないのかという疑問、授業用テキストの活用などによるより効果的な授業実践への下地作りが必要なのではないのかという疑問が提示された。

学生の学力低下が指摘されて久しいが、このことは、残念ながら本学においてもあてはまる。また、高等学校まで触れたことのない専門科目の学習内容に対して、十分な理解を求めることは難しい。授業者は、できるだけ授業内容を厳選して、禁欲的に、「最低限こ

れだけは」という内容に絞って授業をしているつもりではあるが、十分に理解ができていない学生が存在することは、授業の最後に配布するコメントカードへの感想を見てもわかる。

加えて、短期大学の2年間の学習課程において、保育士資格と幼稚園教諭免許状の両方を取得する学生には、約90単位の学習が求められる。それゆえに、授業が過密な状態にあるので、授業の予習がままならず、授業用のテキストに目を通すのは、授業中にテキストにアンダーラインを引かせる時と、試験の前に限られる状態になっているかもしれない。

学生の学力低下に抵抗して卒業時の学生の質の保障に向けた工夫が、授業者だけに限らず求められている。

ところで、授業者は、常々、学生に対するメッセージ性のある授業実践を試みている。今回の授業では、学ぶことができる幸せを伝えたかったが、空回りに終わってしまったような感があり残念であった。

以上、いただいた意見を大雑把に整理し、検討を加えたが、せっかくいただいたご指摘なので、ここに感謝の意を示す共に、以下、本学が使用している授業参観記録用紙の項目に従って、項目番号も含めて、そのままの表現で列举しておきたい。

## (1) 授業を積極的に評価できる点

### ①教育内容

- ・参観者自身が教科書を持たないので不明の点もありますが、本時の子どもが育つ環境の理解をするために、「環境」の概念をカテゴリー化に始まり、家庭環境・地域環境、そして社会変動による影響とあらゆる角度から掘り下げよく整理されていると思った。

- ・基礎的科目であるが専門性が高く、多くの学生にとって容易く受け入れることができない内容のように思われた。しかし学生は真面目に取り組み、指導者は講義内容を学生に分かり易く流れを作り示すことにより、ポイントを絞って説明がなされていた。

- ・他教科との関連がなされていた点。

- ・学生にとって身近な話題を提示することで、子どもを取り巻く環境が、変化してきていることを実感できる点。

- ・子どもが育つ環境について、カテゴリーとそれぞれの相互関連性を説明し、子どもの育ちが環境とともにあることや、それゆえの環境のあり方の重要性が把握できました。

- ・家庭環境と地域環境を具体的に取り上げ、子どもにとっての存在意義や、時代による社

会変動（問題）などを説明し、学生自身に求められる役割を考えさせる機会でした。

- ・綿密に構想された指導案によって、授業が系統的に展開されている。
- ・新聞折り込み広告を教材に用いて、学生の興味関心を高めようとする工夫が見られる。
- ・1年次の学生に対して、授業に臨む姿勢のあり方が明確に指導されている（飲食物の禁止・私語の禁止など）。その背景に、学生一人ひとりを綿密に把握・指導しようとする授業担当教員の指導理念が感じられる。
- ・内容が厳選されており、理解しやすいと思いました。教材研究をしっかりとすれば、学生へ伝える内容を選択できないということも考えることができました。
- ・よく整理されていて周到に計画されていた。
- ・情報発信について説明したが、学生が理解しやすい内容であった。
- ・命名の話など余談も少しあってよかった。しかも本論に戻ってもわずかに私語があったもののそれを引きずらなかった。
- ・環境について、学生は狭い概念でしか考えていません。昨年までの総合演習でいつもそれを感じていたのですが、このような授業をしてくださると今後の研究室活動でも話題が広げやすくなるのでありがたいです。学生自身、自分も子ども達の実験環境であることに気づく機会になったと思います。

## ②授業方法

- ・説得力のある話し方、と常に学生の理解を促し、確かめながら進めているのが良くわかり、いつものことながら改めて感心させられました。
- ・シラバスに沿って授業計画、板書計画が綿密に作成され、講義内容が分刻みの進度で計画通りに展開された。長年の豊富な経験の積み重ねがゆったりとした説得力のある授業になっていると感じた。授業後には指導者自身のメモ、反省点を記録することにより、次年度の指導に生かされている。
- ・広告、ダンボール、雑誌などの具体的な教材が示されることで、学生の集中力が高まり、興味が深まる点。
- ・OHCを利用することで、視覚に訴え、学生の理解を促すことができる点。
- ・冒頭での前回授業のカード紹介は、友達の考えを聞き、自分の考えを見直したり深めたりするいい機会であると思います。
- ・授業展開は、テキストを中心にまとめられていて非常に分かりやすかったです。

・授業担当教員の「始めてよろしいでしょうか?・・」が授業開始の合図となっており、学生に習慣づいている。こうした教員と学生との間に暗黙の合意形成を図ることが一般に必要であろう。

・板書に無駄がない。一回の授業で必要な板書が授業の最後に一瞥できるのみならず、口頭にて板書内容を説明する部分があり、学生に気を抜かすことなく集中させることができる。

・ホワイトボード1枚に1時間の授業内容が記載されるようになっており、1時間の学びが一目で分かります。これにより、1時間の授業内にもいくつかの内容が含まれますが、それぞれの関連性を見出しやすいと思い勉強になりました。

・ほぼ計画に沿って進んだ。広告や段ボールを示すなど、学生の興味を引き理解を容易にする工夫が見られた。

・学生とのやりとりもあり引きつけていた。

・全体にゆっくりしたペースで進み、理解しやすかったと思われる。

・前回のカードを紹介するのはいろいろな意味で効果的だと（以前の先生の授業を拝見した時から思っていました）今回も改めて感じました。

・最低限これだけはこの先生の意図が明確に示されるのでとても分かり易い、それは周到な計画と準備があって初めてできることだといひ勉強になりました。

### ③その他

・最初のカード・雑談のところで、学生からの質問や意見に対しての回答や、話す内容に無駄が無く、他の授業と関連づけながらの話はさすが保育学科長としてよく認識しておられると感銘いたしました。

・普段から学生を引きつける授業をされているのを拝見し、どこに秘密があるのか気になっていた。個々の学生に深く関わり、コミュニケーションをとり、理解することによるのであろうか、大勢の学生を前にしての授業であっても学生にとっては自分に話しかけられていると思えるような授業である。毎回授業後にカードを提出させ、講義内容の理解度を知り、次の授業の導入に使う方法は指導者にとっては根気のいる作業であり、頭が下がる。

・学生に記憶してほしい概念や、理解してほしい内容が厳選されていて、授業のゆとりがあり、学生たちも集中できると感じました。

・大切なことを繰り返し言うことや、言い換えを多用することは、学生の学びを促すのに効果的だと思いました。

・カード記入時に、教壇から降りて、学生の近くまで寄っていく様子が印象的でした。授業での学生とのコミュニケーションについて、新たな方法を知ることができました。

・よい雰囲気であった。

・私語はほとんどなく、眠っている学生も少なかった。

・学生全体を把握して話を進めていくところは、さすがだと思いました。

## (2) 授業の改善にかかわる点

### ①教育内容

・少々気になったことは、教科書を見ながらの（私は持っていないからその場では見ていないがこの話を聞きながら別の本で見たことがある）「子どもが育つ環境の理解」の説明が今の学生諸君にどこまで理解できたのかなと思った。

・授業のまとめの段階で、学生に対して、学生自身が大切に育てられてきている存在であり、だからこそ、学生生活がんばってほしいというメッセージが強く伝わってきました。親、先生、友達を含めた今の学生をとりまく環境にも言及されたら、今日の授業で「環境」について学んだことや、環境にはさまざまな思いがこめられたものなのだが、学生に印象付けられ、次回の保育における環境構成へもつながりやすいのではないかと感じました。

・毎回の授業のメモ、反省点を書かれているのを見て、是非、私も真似させていただきたいと思いました。毎回、先生の授業を受けると、先生がいつもおっしゃる「学生との呼吸」ということを考えさせられます。自分が一方的な授業をしていること、内容を詰め込みすぎていることを反省しました。ありがとうございました。

・子どもが育つ環境として取り上げられた家庭と地域において、教育力の低下が指摘されました。この点について、時代による社会変動（問題）だけでなく、それに取り組む子育て支援や改善された様子も紹介してもらえると保育者の役割を知るきっかけになったかもしれません。

・既に、授業検討会にて松原先生にお伺いしたものと重複するのですが、保育原理ⅠAの授業において、①「保育所保育指針」はどれくらい引用されているのか、②鉛筆の持ち方以外の学習・生活指導の内容にはどのような取り組みがあるのか、③学生の基礎学力向上

を意識した松原先生独自の取り組みとしてどのようなことが行われているのか、を質問させていただきます。

・学生には、ホワイトボードに書いた内容は試験にでると説明されているのでしょうか。また、ホワイトボードにある内容は、ポイントや重要なキーワードのみになると思いますが、その言葉の意味などを学生が理解するために配慮されていることがあれば教えてください。

・環境のカテゴリー化とアフォーダンスについては、説明が少なくややわかりにくかったように思われる。

・最後に子育てコストの増大について言及したが、学生にだからしっかりやりなさいという呼びかけに重点が置かれたような印象を受けた。もう一つまとめに念を押した方がよかったのではないかな。

## ②授業方法

・いつも何らかの関連映像を見せながら授業をされていると思い、楽しみにしていたが今回はそれが無くて残念でした。(これは、私の変な思い込みです)。

・授業中の学生への問いかけが、一部にしかされていないような印象を受けました。座席など、偶然かもしれませんが少し気になりました。

・板書について、赤色や青色のマーカーはお使いになられないのでしょうか。もしよろしければ、その意図を教えてくださいたく存じます。

・アンダーラインやメモの指示があっても若干の学生は聞いておらず、手が動いていなかった。確認のため少し机間巡視をするのはどうか。ただし、話の流れがとぎれるかもしれない。

・検討会でも少し申し上げたことになりますが、学生が主体的に教科書を読み解くきっかけを何らかの形で与えることができないか？ということ（私自身の反省を含めて）感じました。理想的には学生自身がアンダーラインを引く必要に気づくことですが、それは仮題として与えても難しいので授業の中ではとても無理です。読んできていない本からそれをさせると膨大な時間がかかってしまうからです。解決法が分からないままでこのようなことを申し上げることは大変に失礼なことですが、いろいろと試行錯誤中の私が自分の悩みをつぶやいたとしてお許しください。

### ③その他

- ・開始後1時間くらいでは居眠りの学生が増えたがわずかであった。
- ・「非劇」と板書した。私もよくやるが。

### (3) 授業全体の感想

- ・何度拝見しても地道に授業を丁寧にされている様子が伺える授業でした。今日に至るまでの積み重ねをしっかりとされているのが良くわかり、自分の授業を反省する良い機会となりました。ありがとうございました。松原先生、体調不良の中ご苦労様でした。
- ・学生は落ち着きがあり、朝の爽やかな風の通り抜ける講義室で気持ちよく自然体で授業を受けているように感じた。
- ・指導者の体調を気遣っているようにも感じられた。学生の方が保育に関して専門性が高い講義を受けており、自分の勉強不足を痛感し、授業を見せていただくというより受講者という立場になっていた。
- ・毎度のことですが、分刻みで進む軽快で、特に今回は穏やかな授業をととても楽しませていただきました。無駄も無理もない授業のため、しっかりと安心して授業に集中することができました。カードに、自身の授業についての感想があったことも大変嬉しかったです(お気遣い?ありがとうございました)。
- ・ただ1つだけ残念に思ったことがあります。松原先生の授業内容や方法についてではなく、学生であることにかかる費用についてのお話が以前に比べて、学生があまり反応しなかった点がとても気になりました。驚きも少なく、ご両親への感謝や学生であることの有難みもあまり感じていないように思いました。気のせいであればいいのですが、私にとってここ1,2年の学生の変化に少々憂慮しています。
- ・松原先生の授業を拝見させていただいた際には、自身の授業の拙さと同時に、さらなる改善努力を図らなければという思いをいつも痛感しております。それにも増して今回の授業参観で改めて感じたことは、今年度の保育学科1年次生に見られる基礎学力不足と勉強意欲の欠乏、精神的な未熟さに基づく生活リズムの乱れ、です。今までの学生以上に、事態の深刻さを感じます。ただ、そうした学生に対しても学力と学習習慣を身につけさせる授業づくりの示唆をいただけたと思います。授業を拝見させていただき、ありがとうございました。
- ・授業を参観させていただきありがとうございました。講義形式の授業ですが、教員のー

方的な話で授業が進むのではなく、学生に確認をとりながら授業が進みますので、私自身90分が長いと感じませんでした。おそらく学生も同じ気持ちであろうと感じますし、より深い学びになっていると思いました。また、大学になりますと、学生個々への対応が薄れ、教員と学生との関係に距離がある場合があります。しかし、先生の場合は、出席カードのコメントもできるだけ全員に答えるように工夫されており、非常に勉強になりました。

・見事なほどよく整然と進められていた。授業者のほぼ意図通りの展開だと思われる。学生との普段からの人間関係が背景にあるからでしょうか。大変参考になった。強いていえば、教師主導の授業であったが、本学ではこのくらいでないといけないかもしれないと思った。また、授業者は今回はそのような授業を意図していたかもしれないと思う。

なお、ペンの握り方を指導したが、このクラスでは、見たところ変な握り方の学生は少なかった。

・いつもながら完全に準備を整えて授業に望む先生の姿に頭がさがる想いです。メリハリのある手綱さばき、大いに参考にさせていただきます。ありがとうございました。

まとめにかえて

授業者が、本学（高松大学と高松短期大学合わせて）において研究授業を行うのは、これで4回目となった。今回の研究授業では、これまで以上に多くの方にご参観をいただき、ご意見を賜ることができた。

ここに改めて、感謝の意を示したい。「ありがとうございました」。



| 保育原理Ⅰ A 講義計画                      |                                                                          | 対象：保育１年 | 第２講 | 2008年4月17日(木) |
|-----------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|---------|-----|---------------|
| 題 目                               | 保育の目的と目標(1)                                                              |         |     |               |
| 目 標                               | ・「保育」に関する概念の形成をはかる。<br>・「幼稚園教育要領」と「保育所保育指針」から、「保育」の目的と目標を整理する。           |         |     |               |
| 講 義 内 容 ・ 学 習 活 動 ・ 指 導 上 の 留 意 点 |                                                                          |         |     |               |
| 9h00                              | カード・雑談                                                                   |         |     |               |
| 9h15                              | Q. 保育所と幼稚園、どう違う？→ノートに！<br>Q. 「保育」と「幼児教育」、どう違う？→ノートに！<br>& アンケート（保育者の専門性） |         |     |               |
| 9h25                              | Ans!                                                                     |         |     |               |
| 9h35                              | 保育所保育指針                                                                  |         |     |               |
| 9h45                              | 幼稚園教育要領                                                                  |         |     |               |
| 9h55                              | 「保育」と「教育」、「養護」の関係のまとめ                                                    |         |     |               |
| 10h20                             | カード&アンケート（保育者の専門性）                                                       |         |     |               |
| 資料等                               | カード、アンケート用紙（保育者の専門性）、保育所保育指針&幼稚園教育要領                                     |         |     |               |
| 備 考                               |                                                                          |         |     |               |

|                                                                                                                        |                                                                                                       |     |               |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|---------------|
| 保育原理 I A 板書計画                                                                                                          | 対象：保育1年                                                                                               | 第2講 | 2008年4月17日(木) |
| <p>保育の目的と目標</p> <p>保育所保育の目的 (児童福祉法 39)</p> <p>保育に欠ける乳幼児の保育</p> <p>家庭教育の補充<br/>健全な心身の発達<br/>「養護」と「教育」の一体性<br/>子育て支援</p> | <p>幼稚園教育の目的 (学校教育法 77)</p> <p>適当な環境による心身の助長</p> <p>幼児期にふさわしい生活の展開<br/>遊びを通しての総合的指導<br/>一人一人に応じた指導</p> |     |               |
| <p>メ<br/>モ<br/>・<br/>反<br/>省<br/>点</p>                                                                                 |                                                                                                       |     |               |

| 保育原理Ⅰ A 講義計画                      |                                                                | 対象：保育1年 | 第3講 | 2008年4月24日(木) |
|-----------------------------------|----------------------------------------------------------------|---------|-----|---------------|
| 題 目                               | 保育の目的と目標(2)                                                    |         |     |               |
| 目 標                               | ・「保育」に関する概念の形成をはかる。<br>・「幼稚園教育要領」と「保育所保育指針」から、「保育」の目的と目標を整理する。 |         |     |               |
| 講 義 内 容 ・ 学 習 活 動 ・ 指 導 上 の 留 意 点 |                                                                |         |     |               |
| 9h00                              | カード・雑談 レポートの書き方の補足（綴じ方！）                                       |         |     |               |
| 9h15                              | 相手の側に立つということ                                                   |         |     |               |
| 9h25                              | 育つ、育てる、育ち合う                                                    |         |     |               |
| 9h40                              | 保育はともに生活を「創る」もの                                                |         |     |               |
| 9h55                              | 保育のとらえ方の変遷                                                     |         |     |               |
| 10h05                             | 保育の専門性とは何か？                                                    |         |     |               |
| 14h20                             | カード                                                            |         |     |               |
| 資料等                               | カード、アンケート結果「保育職に必要なもの」                                         |         |     |               |
| 備 考                               |                                                                |         |     |               |

| 保育原理Ⅰ A 板書計画                                                                                                                                                                                                                                | 対象：保育1年                                                                                                                                                                                                                                                           | 第3講                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 2008年4月24日(木) |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|
| <p>保育の目的と目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の側に立つということ             <ul style="list-style-type: none"> <li>ー保育の基本</li> </ul> </li> <li>・育つー育てる             <ul style="list-style-type: none"> <li>→育ち合う</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ともに生活を「創る」             <ul style="list-style-type: none"> <li>「生活を、生活で、生活へ」(倉橋惣三)</li> <li>生活をー「さながらの生活」</li> <li>生活でー自然な生活形態</li> <li>子どもの生活の必然性や必要に即して</li> <li>生活へー充実した生活</li> <li>子どもの主体的活動の尊重</li> </ul> </li> </ul> | <p>保育の専門性</p> <p>3つのH</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <span style="font-size: 2em; margin-right: 5px;">{</span> <div style="display: inline-block; text-align: center;"> heart<br/>hand<br/>head </div> <span style="font-size: 2em; margin-left: 5px;">}</span> </div> <p>「教育」と「保育」の混乱</p> <p>戦後の二元的制度の影響</p> <p>「教育」ー幼稚園<br/>「保育」ー保育所</p> <p><u>「保育」の言葉に込められた思い</u></p> |               |
| メモ・反省点                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |               |

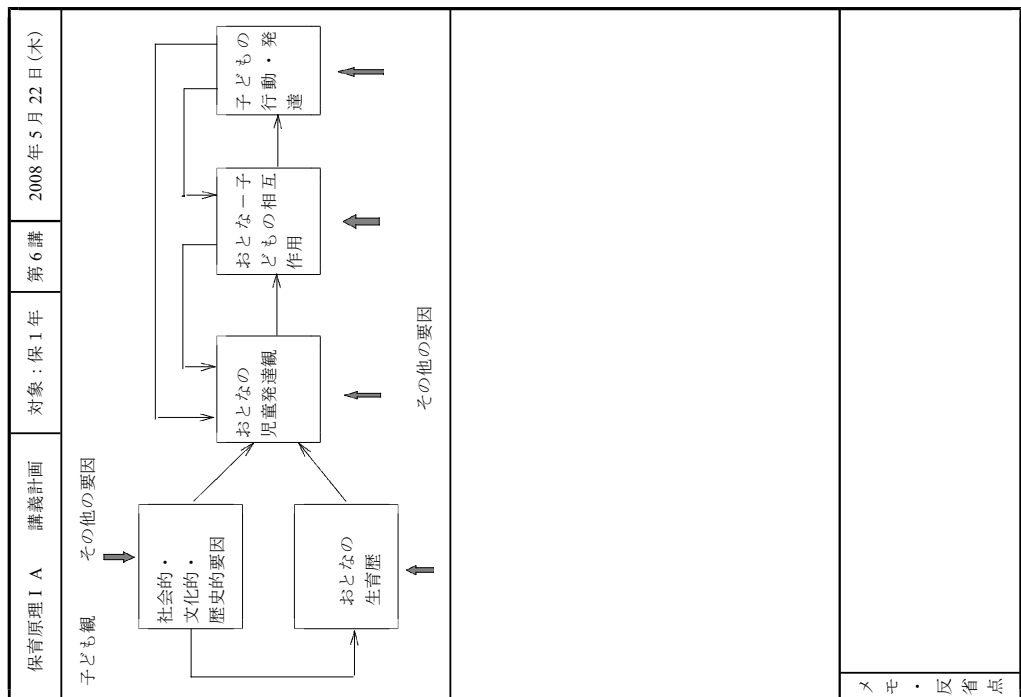
| 保育原理Ⅰ A 講義計画                      |                                                       | 対象：保 1                                                                  | 第 4 講 | 2008 年 5 月 1 日 (木) |
|-----------------------------------|-------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|-------|--------------------|
| 題 目                               |                                                       | 子ども観について考える (1)                                                         |       |                    |
| 目 標                               |                                                       | ・自らの子ども観をまとめる作業を通して、自らの子ども観を深める。<br>・子ども観をもつことの大切さを理解し、子ども観を大切にする姿勢をもつ。 |       |                    |
| 講 義 内 容 ・ 学 習 活 動 ・ 指 導 上 の 留 意 点 |                                                       |                                                                         |       |                    |
| 時 分                               | 保育学研究法の研究グループ単位に着席させる                                 |                                                                         |       |                    |
| 9h00                              | 手遊び 「生活を生活で生活へ」の話へ                                    |                                                                         |       |                    |
| 9h15                              | カード・雑談 時間割変更 (5/8 保育学研究法 5/22 保育原理Ⅰ A)<br>保育者の専門性－簡単に |                                                                         |       |                    |
| 9h25                              | Q「子ども」って何だろう？<br>自分の子ども観にまとめる<br>「話題」のプリントに従って。       |                                                                         |       |                    |
| 9h35                              | 話し合い－保育学研究法の研究グループ単位                                  |                                                                         |       |                    |
| 9h55                              | まとめ－提出用プリントに                                          |                                                                         |       |                    |
| 10h10                             | 子ども観とは？                                               |                                                                         |       |                    |
| 10h13                             | 子どもの絵                                                 |                                                                         |       |                    |
| 10h23                             | カード                                                   |                                                                         |       |                    |
| 資料等                               | カード、子ども観についての話題プリント、子どもを描いた絵を掲載している本                  |                                                                         |       |                    |
| 備 考                               |                                                       |                                                                         |       |                    |

| 保育原理Ⅰ A 講義計画                                   |  | 対象：保 1                                       | 第 4 講 | 2008 年 5 月 1 日 (木) |
|------------------------------------------------|--|----------------------------------------------|-------|--------------------|
| 保育の専門性                                         |  | 子ども観<br><br>「子ども」とはどのような存在？<br>おとなから見た子どもの特徴 |       |                    |
| 3 つの H      { heart<br>hand<br>head }          |  |                                              |       |                    |
| アンパンマン    食パンマン    カレーパンマン    バイキンマン    ドキンちゃん |  |                                              |       |                    |
| ドラえもん    のび太君    スネ夫君    ジャイアン    しずかちゃん       |  |                                              |       |                    |
| メモ・反省点                                         |  |                                              |       |                    |

| 保育原理 I A 講義計画 |                                                                                                                                | 対象：保 1 | 第 5 講 | 2008 年 5 月 15 日 (木) |
|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|-------|---------------------|
| 題 目           | 子ども観について考える(2)                                                                                                                 |        |       |                     |
| 目 標           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・先週出た多様な子ども観について考え、自らの子ども観を深める。</li> <li>・子ども観をもつことの大切さを理解し、子ども観を大切にする姿勢をもつ。</li> </ul> |        |       |                     |
| 講 義 内 容       | 学 習 活 動 ・ 指 導 上 の 留 意 点                                                                                                        |        |       |                     |
| 時 分           |                                                                                                                                |        |       |                     |
| 9h00          | カード・雑談                                                                                                                         |        |       |                     |
| 9h10          | 自分たちの子ども観の検証（プリント配布）<br>本当に子どもだけにあてはまることか？ーチェック<br>目標ーその背景にあるものは？<br>自分は子どもをどうみていたのだろうか？                                       |        |       |                     |
| 9h40          | 子ども観とは？                                                                                                                        |        |       |                     |
| 9h50          | 子ども観に含まれる様々な要素                                                                                                                 |        |       |                     |
| 10h05         | 子ども観が影響するもの／されるもの                                                                                                              |        |       |                     |
| 10h15         | 自己中心性に起因する子ども観？                                                                                                                |        |       |                     |
| 10h23         | カード 「来週もそのプリントを忘れないで！」                                                                                                         |        |       |                     |
| 資料等           | カード、学生による子ども観プリント、子どもを描いた絵を掲載している本・写真                                                                                          |        |       |                     |
| 備 考           |                                                                                                                                |        |       |                     |

| 保育原理 I A 講義計画                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 対象：保 1 | 第 5 講 | 2008 年 5 月 15 日 (木) |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|-------|---------------------|
| <p>子ども観</p> <p>「子ども」とはどのような存在？<br/>おとなから見た子どもの特徴</p> <p>cf. 「保育観」</p> <p>おとな (A さん)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <div style="border-bottom: 1px dashed black; padding-bottom: 5px;"> <b>児童発達観</b><br/>           子どもに関する：<br/>           認知カテゴリー・概念体系<br/>           信念体系<br/>           価値体系         </div> <div style="padding-top: 5px;">           子どもの取り扱いに関する：<br/>           技術体系         </div> </div> <p style="text-align: center;"> <span style="margin-right: 50px;">→</span> <span>←</span><br/>           行動・状態<br/>           子ども (B ちゃん)         </p> |        |       |                     |
| メ<br>モ<br>・<br>反<br>省<br>点                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |        |       |                     |

| 保育原理 I A 講義計画 |                                                                  | 対象：保 1 年 | 第 6 講 | 2008 年 5 月 22 日 (木) |
|---------------|------------------------------------------------------------------|----------|-------|---------------------|
| 題 目           | 子ども観について考える (3)                                                  |          |       |                     |
| 目 標           | ・子ども観の成り立ちを考え、自分の保育観を顧みる。<br>・子ども観をもつことの大切さを理解し、子ども観を大切にする姿勢をもつ。 |          |       |                     |
|               | 講 義 内 容 ・ 学 習 活 動 ・ 指 導 上 の 留 意 点                                |          |       |                     |
| 時 分           |                                                                  |          |       |                     |
| 9h00          | 手遊び「ワニの家族」？                                                      |          |       |                     |
| 9h10          | Q「あなたの子ども観はなぜそう思うようになったか？」<br>ノートの隅に、子ども観とその影響要因をまとめさせる          |          |       |                     |
| 9h20          | 発表！→先週の復習                                                        |          |       |                     |
| 9h30          | 子ども観が影響するもの／影響されるもの<br>「あなたはこう思う？」<br>Q「親戚に女の子が生まれた。何をプレゼントする？」  |          |       |                     |
| 9h45          | 時代・文化の違い ジェンダー、生育歴                                               |          |       |                     |
| 10h10         | 子どものけんかの仲裁（あるいは学生による「保育の目標」概観）                                   |          |       |                     |
| 10h20         | カード                                                              |          |       |                     |
| 資料等           | カード、                                                             |          |       |                     |
| 備 考           |                                                                  |          |       |                     |

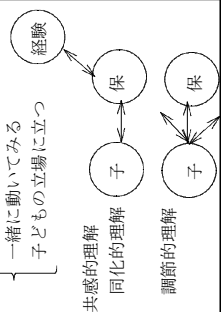
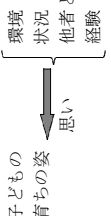




| 保育原理Ⅰ A 講義計画                                                  |                               |  | 対象：保育1年 | 第8講 | 2008年6月5日(木) |
|---------------------------------------------------------------|-------------------------------|--|---------|-----|--------------|
| 題 目 保育・子ども理解からの出発(1)                                          |                               |  |         |     |              |
| 目 標                                                           |                               |  |         |     |              |
| ・子どもを理解する際の基本的な姿勢を理解する。<br>・子ども理解を深めるために必要な日々の姿勢に気をつける意志を高める。 |                               |  |         |     |              |
| 講 義 内 容 ・ 学 習 活 動 ・ 指 導 上 の 留 意 点                             |                               |  |         |     |              |
| 9h00                                                          | カード・雑談<br>ボランティアの案内           |  |         |     |              |
| 9h10                                                          | 絵本『トーマスのくくば』<br>感想いろいろ        |  |         |     |              |
| 9h25                                                          | 「子どもらしさ」の見直し                  |  |         |     |              |
| 9h40                                                          | 子どもを見るまなざし                    |  |         |     |              |
| 9h55                                                          | 見る側の目によって変化する子どもの姿            |  |         |     |              |
| 10h23                                                         | カード                           |  |         |     |              |
| 資料等                                                           | カード、PC、画像データ（トーマスのくくば）、手遊びDVD |  |         |     |              |
| 備 考                                                           |                               |  |         |     |              |

| 保育原理Ⅰ A 板書計画                                                                                                                                                               |  | 対象：保育1年                                                                                                                                     | 第8講 | 2008年6月5日(木) |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|--------------|
| <p>保育・子ども理解からの出発<br/>「子どもらしさ」見直し</p> <p>子どもらしさーふくらませるもの<br/>充実させていくもの</p> <p>↑</p> <p>結果重視から<br/>プロセス重視へ</p> <p>子どもー未成熟・未分化<br/>おとなへの準備期間<br/>発達↓<br/>より早く、より正確に、より巧妙に</p> |  | <p>子どもをみるまなざし</p> <p>「まなざし」ー温かく受容的態度<br/>子ども理解の基本姿勢<br/>子どもとの信頼関係の構築</p> <p>2人称的アプローチ<br/>共感的理解<br/>支え、援助の思いのこもった見方</p> <p>cf.3人称的アプローチ</p> |     |              |
| <p>見る側の目によって変化する子どもの姿</p> <p>保育者の子ども観・保育観<br/>子どもへの関わり方を支配</p> <p>保育者の目← 相互的關係 →子どもの目<br/>→子どもの発達に影響</p> <p>概念的理解の危険性ーレッテル貼り</p> <p>子どもの行為ー内的世界の表現<br/>「行為」には意味がある！</p>    |  |                                                                                                                                             |     |              |
| メモ・反省点                                                                                                                                                                     |  |                                                                                                                                             |     |              |

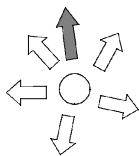
| 保育原理Ⅰ A 講義計画 |                                                                                                           | 対象：保育1年 | 第9講 | 2008年6月12日(木) |
|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|-----|---------------|
| 題 目          | 保育・子ども理解からの出発(2)                                                                                          |         |     |               |
| 目 標          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもを理解する際の基本的な姿勢を理解する。</li> <li>・子どもの発達を顧る基本的な姿勢を理解する。</li> </ul> |         |     |               |
| 講 義 内 容      | 学 習 活 動 ・ 指 導 上 の 留 意 点                                                                                   |         |     |               |
| 9h00         | カード・雑談                                                                                                    |         |     |               |
| 9h15         | 見る側の目によって変化する子どもの姿                                                                                        |         |     |               |
| 9h50         | 子どもの行為の「意味」を探る                                                                                            |         |     |               |
| 10h05        | さまざまな発達観<br>Q:「発達する」とは「発達観」の見直し                                                                           |         |     |               |
| 10h23        | カード                                                                                                       |         |     |               |
| 資料等          | カード、                                                                                                      |         |     |               |
| 備 考          |                                                                                                           |         |     |               |

| 保育原理Ⅰ A 板書計画                                                                                       |  | 対象：保育1年                                                                                           | 第9講 | 2008年6月12日(木) |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------|--|---------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|---------------|
| 保育・子ども理解からの出発<br>見る側の目によって変化する子どもの姿<br>保育者の子ども観・保育観<br>子どもへの関わり方を支配                                |  | 子どもの行為の「意味」<br>カウンセリングマインド<br>個別的・共感的理解<br>ありのままの姿を肯定的・受容的に<br>温かい関心を寄せる<br>一緒に動いてみる<br>子どもの立場に立つ |     |               |
| 保育者の目← 相互的關係 →子どもの目<br>→子どもの発達に影響<br>概念的理解の危険性ーレッテル貼り<br>子どもの行為ー内的世界の表現<br>「行為」には意味がある！            |  |                  |     |               |
| 保育・子ども理解からの出発<br>「発達」観の見直し<br>「できる」「できない」<br>≠ 「する」「しない」<br>子どもの育ちの姿<br>環境<br>状況<br>他者とのやりとり<br>経験 |  |                  |     |               |
| メモ・反省点                                                                                             |  |                                                                                                   |     |               |

| 保育原理Ⅰ A 講義計画                                      |                                     |  | 対象：保育１年 | 第10講 | 2008年6月19日(木) |
|---------------------------------------------------|-------------------------------------|--|---------|------|---------------|
| 題目 保育・子ども理解からの出発(3)                               |                                     |  |         |      |               |
| 目 標                                               |                                     |  |         |      |               |
| ・子どもを理解する際の基本的な姿勢を理解する。<br>・子どもの発達を顧る基本的な姿勢を理解する。 |                                     |  |         |      |               |
| 講 義 内 容 ・ 学 習 活 動 ・ 指 導 上 の 留 意 点                 |                                     |  |         |      |               |
| 時 分                                               |                                     |  |         |      |               |
| 9h00                                              | 雑談・カード（レポートについての予告）                 |  |         |      |               |
| 9h08                                              | さまざまな発達観<br>Q:「発達する」とは<br>「発達観」の見直し |  |         |      |               |
| 9h20                                              | 保育の中でとらえられる子どもの発達<br>かわりのなかで見続けること  |  |         |      |               |
| 9h40                                              | 結果ではなく、プロセスとして見ること                  |  |         |      |               |
| 9h55                                              | 「発達の課題」と「発達課題」                      |  |         |      |               |
| 10h05                                             | 子ども理解を深めるために                        |  |         |      |               |
| 10h23                                             | カード                                 |  |         |      |               |
| 資料等                                               | カード、発達心理学テキスト、幼稚園教育要領、保育所保育指針       |  |         |      |               |
| 備 考                                               | 次週は、研究授業！                           |  |         |      |               |

| 保育原理Ⅰ A 板書計画                                                                                                                      | 対象：保育１年 | 第10 講                                                                                                                                                                                                                                                     | 2008年6月19日(木) |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|
| <p>保育・子ども理解からの出発</p> <p>「発達」観の見直し</p> <p>「できる」「できない」<br/>≠「する」「しない」</p> <p>子どもの育ちの姿 ← 思い</p> <p>環境<br/>状況<br/>他者とのやりとり<br/>経験</p> |         | <p>保育の中でとらえられる子どもの発達<br/>「かかわりのなかで見続けること」<br/>子どもの行為の「意味」の理解<br/>子どもの世界の理解<br/>子どもの心への接近<br/>→子どもとの信頼関係</p> <p>「プロセスとして見ること」<br/>時の流れにおける発達体験の意味<br/>発達体験－変化<br/>自己の広がり・深まり</p> <p>ex. 葛藤・いざこざ 発達のプロセス</p>                                                |               |
| <p>(テキスト p.55 の部分を自ら記す)</p> <p>「発達の課題」－</p> <p>「発達課題」－</p>                                                                        |         | <p>子ども理解を深めるために</p> <p>子どもの「行為」には意味がある<br/>子どもを取り巻く関係性を見る<br/>子どもの行為の背景を理解する姿勢<br/>子どもの育ち<br/>－自分らしい集団での居場所探し</p> <p>子どもを見る視点</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・子どもの視点の共有</li><li>・保育者としての自己の視点</li><li>・自己の視点を相対化する視点</li></ul> <p>自覚的な振り返り</p> |               |
| メ<br>モ<br>・<br>反<br>省<br>点                                                                                                        |         |                                                                                                                                                                                                                                                           |               |

| 保育原理Ⅰ A 講義計画                      |                                                 | 対象：保育1年 | 第11講 | 2008年6月26日(木) |
|-----------------------------------|-------------------------------------------------|---------|------|---------------|
| 題 目                               | 子どもが育つ環境の理解(1)                                  |         |      |               |
| 目 標                               | ・「環境」の概念を理解する。<br>・子どもを取り巻く社会的な環境の変化とその影響を理解する。 |         |      |               |
| 講 義 内 容 ・ 学 習 活 動 ・ 指 導 上 の 留 意 点 |                                                 |         |      |               |
| 9h00                              | カード・雑談                                          |         |      |               |
| 9h10                              | 「環境」をどうとらえるか<br>「環境」とは                          |         |      |               |
| 9h20                              | 「環境」のカテゴリー化                                     |         |      |               |
| 9h30                              | 子どもの育ちと環境<br>環境にかかわることにより、子どもは育つ                |         |      |               |
| 9h40                              | 家庭環境の意味と変化                                      |         |      |               |
| 9h55                              | 地域環境の意味と変化                                      |         |      |               |
| 10h10                             | 社会変動による影響<br>エンゼル係数                             |         |      |               |
| 10h23                             | カード                                             |         |      |               |
| 資料等                               | カード、『週聞東洋経済』                                    |         |      |               |
| 備 考                               | 保育学科研究授業（指導案その他資料を準備すること）                       |         |      |               |

| 保育原理Ⅰ A 板書計画                                                                                 | 対象：保育1年                                                                                                                                   | 第11講 | 2008年6月26日(木) |
|----------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|---------------|
| 子どもが育つ環境の理解<br>「環境」一人がかかわるすべて<br>{ マイクロ・システム<br>メゾ・システム<br>エクソ・システム<br>マクロ・システム<br>＊相互の関連性   | 環境←→子どもの育ち<br>人間の発達<br>一 個 体 と 環 境 と の 相 互 作 用 の 過 程<br> |      |               |
| 子どもを取り巻く身近な環境<br>家庭－基本的な生活の場<br>認知、社会性、人間関係<br>基本的生活習慣<br>家庭の教育力の低下<br>母性・父性のかげり<br>育児不安 その他 | 地域－共同性、連帯性<br>都市化<br>地域の教育力の低下<br>職住分離・体験の欠落<br>子ども文化の消失<br>育児家庭の孤立化<br>社会変動<br>情報化－画一化<br>高学歴化<br>子育てコストの増大                              |      | ＊子育て支援社会の必要性！ |
| メモ・反省点                                                                                       |                                                                                                                                           |      |               |

| 保育原理Ⅰ A 講義計画                      |                                                                                                                                                | 対象：保育1年 | 第12講 | 2008年7月3日(木) |
|-----------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|------|--------------|
| 題 目                               | 子どもが育つ環境の理解(2)                                                                                                                                 |         |      |              |
| 目 標                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもを取り巻く社会的な環境の変化とその影響を理解する。</li> <li>・「環境による保育」の意味を理解する。</li> <li>・子どもの遊びをはぐくむ環境のあり方を理解する。</li> </ul> |         |      |              |
| 講 義 内 容 ・ 学 習 活 動 ・ 指 導 上 の 留 意 点 |                                                                                                                                                |         |      |              |
| 9h00                              | カード・雑談<br>レポート課題について レポート&手遊び                                                                                                                  |         |      |              |
| 9h15                              | 「子どもを取り巻く身近な環境」の復習－ライン引き<br>(自分たちがこうした状況の中で言ったことに気づく)                                                                                          |         |      |              |
| 9h20                              | 環境による保育                                                                                                                                        |         |      |              |
| 9h40                              | 遊びをはぐくむ環境                                                                                                                                      |         |      |              |
| 9h55                              | ふさわしい環境を構成するための視点                                                                                                                              |         |      |              |
| 10h15                             | 保育者という環境                                                                                                                                       |         |      |              |
| 10h23                             | カード                                                                                                                                            |         |      |              |
| 資料等                               | カード、レポート課題、手遊びコピー、                                                                                                                             |         |      |              |
| 備 考                               |                                                                                                                                                |         |      |              |

| 保育原理Ⅰ A 板書計画                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 対象：保育1年 | 第12講 | 2008年7月3日(木) |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|------|--------------|
| <p>保育における環境</p> <p>「環境による保育」(要領・指針)<br/>子どもの主体性重視<br/>↑ 育ちの援助</p> <p>遊びをはぐくむ環境 (森:1979)</p> <p>物理的環境 { スペース<br/>遊具・素材<br/>人的環境 { 幼児－幼児<br/>(人間関係) 保育者－幼児</p> <p>空間<br/>時間<br/>環境</p> <p>ふさわしい環境構成の視点<br/>保育者という環境<br/>「愛と信頼で支えられる保育環境」</p> <p>自由－時間的・空間的<br/>(? 自由遊び)<br/>不確実性・可変性－応答性<br/>低構造化性－想像力・イメージへの対応<br/>多様な変化<br/>許容的・指示的集団風土</p> |         |      |              |
| メモ・反省点                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |         |      |              |

| 保育原理 I B 講義計画                                                        |                                     |  | 対象：保育 1 年 | 第 13 講 | 2008 年 7 月 17 日 (木) |
|----------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|--|-----------|--------|---------------------|
| 題 目<br>子育て支援の必要性                                                     |                                     |  |           |        |                     |
| 目 標                                                                  |                                     |  |           |        |                     |
| ・今日の少子化問題について、関心と理解を深める。<br>・少子化の現状と背景を理解する。<br>・子育て支援の基本的な考え方を理解する。 |                                     |  |           |        |                     |
| 講 義 内 容 ・ 学 習 活 動 ・ 指 導 上 の 留 意 点                                    |                                     |  |           |        |                     |
| 時 分                                                                  |                                     |  |           |        |                     |
| 9h00                                                                 | カード                                 |  |           |        |                     |
| 9h10                                                                 | 今時の結婚式場                             |  |           |        |                     |
| 9h15                                                                 | ビデオ「いまだときゴージャスお産」                   |  |           |        |                     |
| 9h30                                                                 | 少子化の理由を考えよう！<br>晩婚化の進行              |  |           |        |                     |
| 9h37                                                                 | 育児の孤立化                              |  |           |        |                     |
| 9h48                                                                 | 女性への負担集中                            |  |           |        |                     |
| 9h58                                                                 | 仕事と育児の両立                            |  |           |        |                     |
| 10h10                                                                | 少子化の影響                              |  |           |        |                     |
| 14h23                                                                | カード                                 |  |           |        |                     |
| 資料等                                                                  | カード、DVD「ゴージャスお産」、PC、パワポ資料、リモコン・ポインタ |  |           |        |                     |
| 備 考                                                                  |                                     |  |           |        |                     |

|                               |           |        |                     |
|-------------------------------|-----------|--------|---------------------|
| 保育原理 I B 板書計画                 | 対象：保育 1 年 | 第 13 講 | 2008 年 7 月 17 日 (木) |
| <p>パワーポイント使用のため、本日は板書しない。</p> |           |        |                     |
|                               |           |        |                     |
|                               |           |        |                     |
| メモ・反省点                        |           |        |                     |

| 保育原理Ⅰ A 講義計画                      |                                                                                              | 対象：保育1年 | 第14講 | 2008年7月24日(木) |
|-----------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|---------|------|---------------|
| 子育て支援の必要性と基本的方向性                  |                                                                                              |         |      |               |
| 題 目                               | 子育て支援の必要性と基本的方向性                                                                             |         |      |               |
| 目 標                               | ・今日の少子化問題の背景と影響について、関心と理解を深める。<br>・子育て支援策の理念と全体像を理解する。<br>・保育の仕事の社会的な重要性を認識し、保育学生としての自覚を高める。 |         |      |               |
| 講 義 内 容 ・ 学 習 活 動 ・ 指 導 上 の 留 意 点 |                                                                                              |         |      |               |
| 時 分                               |                                                                                              |         |      |               |
| 9h00                              | カード                                                                                          |         |      |               |
| 9h10                              | 少子化の現状                                                                                       |         |      |               |
| 9h20                              | 少子化の要因と背景                                                                                    |         |      |               |
| 9h35                              | 少子化の影響                                                                                       |         |      |               |
| 9h45                              | 子育て支援策の流れ                                                                                    |         |      |               |
| 10h00                             | 試験について                                                                                       |         |      |               |
| 10h20                             | カード&授業アンケート                                                                                  |         |      |               |
| 資料等                               | カード、授業アンケート                                                                                  |         |      |               |
| 備 考                               |                                                                                              |         |      |               |

| 保育原理Ⅰ A 板書計画                                                                                                                                                 | 対象：保育1年                                                         | 第14講 | 2008年7月24日(木) |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|------|---------------|
| 少子社会の進行<br>少子化の現状<br>合計特殊出生率 1.26(2005)<br>(2.08 → 人口維持に必要)<br>少子化の原因 → 未婚率の上昇(晩婚化)<br>・育児の負担感<br>・仕事との両立の負担感<br>・経済的負担<br>・個人の結婚観・価値観の変化                    | 少子化の影響<br>・子どもの健やかな成長への影響<br>・経済への影響<br>・社会保障への影響<br>・住民サービスの低下 |      |               |
| →子育て支援策の推進<br>1994 エンゼルプラン<br>1999 新エンゼルプラン<br>2002 少子化対策プラスワン<br>2003 少子化対策基本法<br>2004 子ども・子育て応援プラン<br>保育所一地域の子育て支援<br>待機児童対策<br>幼稚園ー保育所化？<br>2006 認定子ども園誕生 |                                                                 |      |               |
| メモ・反省点                                                                                                                                                       |                                                                 |      |               |

高松大学紀要  
第 51 号

平成21年 2 月25日 印刷

平成21年 2 月28日 発行

編集発行 高 松 大 学  
高 松 短 期 大 学  
〒761-0194 高松市春日町960番地  
TEL (087) 841 - 3255  
FAX (087) 841 - 3064

印 刷 株式会社 美巧社  
高松市多賀町 1 - 8 - 10  
TEL (087) 833 - 5811